

特 別 研 究 論 文

標題

患者が主体となった医療情報データベースシステムの開発

欧文標題

Verification of Earthquake Prediction Ability of
Aplysia Juliana to Live in Ise Bay

研究者氏名 松岡 竜嗣

指導教員 青山 俊弘 准教授

提出日 平成 2 7 年 2 月 1 日

鈴鹿工業高等専門学校

電子機械工学専攻

Abstract

BY EXCITE TRANSLATION

目次

1	背景	1
2	目的	1
3	方法	1
4	開発	1
5	アプリケーションの開発環境	1
6	データベースの設計	2
7	アプリケーションの設計	2
8	アプリケーションの機能	2
8.1	患者情報閲覧	3
8.2	共有の許可, 権限	3
8.3	データベースの利用	3
9	結果	3
10	考察	3

1 背景

医療の連携はうまくいっていない。ICT でいいかんじにやろうと国主体でやってるが、いまいち、あじさいネットは成功例。でも全国に普及してるわけではない。[?] 共通の規格が活用されていない現実があるので、いろんな規格の差を吸収できるようなアプリは必要があるんじゃないかな。とりあえずシェアが大きいような ss-mix を中心に、既存アプリ id-lin などは患者 id をリンクしているだけで情報を一元的に集約はしていない。人の生涯よりアプリの寿命の方が短い。アプリに合わせてデータベース設計されてる。NoSQL に普遍的に情報をためてって、時代に合わせたアプリ、ビューでうまいことやろうぜ。開発年内に殺す。

2 目的

医療大から要望があったエクセル形式のデータについてのアプリは Django で開発を終えた。今後需要があるであろうバイタルデータの活用に向けて、NoSQL を用いたアプリ開発を行い、将来の医療情報共有のコンセプトを提案する。様々なフォーマットを医療関係者、患者の二者からの入力を受け付ける（患者からしか入力できないどこでも my 病院との差別化）。

3 方法

あじさいネットは10年にわたる活動の中でアンケートを繰り返し、会費だけで運用することができるシステムになっていった。三重県にこのような医療ネットワークを実現するためのたたき台として本研究では開発を進めた。

4 開発

コードの設計、開発環境のセットアップ、スクショ、工夫したところここでは開発したアプリケーションに関する工夫を説明する。

5 アプリケーションの開発環境

web アプリケーション開発には javascript の web フレームワークである Node.js を用いた。Node.js のパッケージである express と nano を用いた。express は web フレームワークで、nano は CouchDB のためのドライバである。

図 2: データサンプル

図 目 次

1	データ定義	2
2	データサンプル	3

表 目 次